宮崎県かんしょ 振興方針

～次世代につなぐ持続可能なかんしょ産地体制づくり～

目指す姿

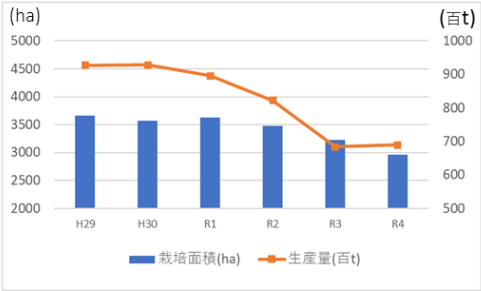
サツマイモ基腐病を克服するとともに、茎頂培養苗の安定供給体制の整備や低コストで省力的な儲かる生産モデルの育成など、産地の復興に向けた具体的な対策を早急に進めることで、持続可能なかんしょ産地の新生を目指します。

本県かんしょの現状と課題

【現状】

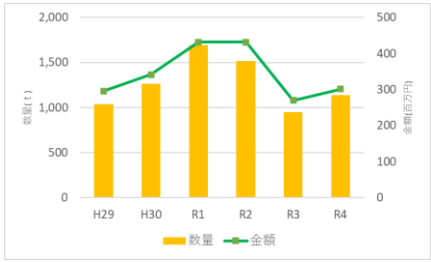
○ 栽培面積全国第４位、産出額第５位のかんしょ産地であるが、高齢化やサツイモ基腐病の発生等により平成29年をピークに栽培面積、生産量ともに減少傾向。
○ 県西や県中南部の黒ボク土壌の畑地帯を中心に、夏場の土地利用型作物として栽培され、用途別(面積)では、青果用20%、焼酎原料用59%、加工用19%、でん粉用2%となっている。
○ 平成31年１月にサツマイモ基腐病の発生が本県で初確認され、その後、青果用、焼酎原料用に拡大。発生防止対策の取組は生産者間での格差が見られる。
○ 高齢化に伴う離農等により作付面積の減少が進む中、一部で経営規模の拡大も図られているが、生産コストの上昇により農業所得が減少。
○ 輸出量は令和元年をピーク（R元:1,696t）に減少したが、令和4年は回復傾向。
○ 茨城県他、北海道など関東以北では作付面積が増加傾向。

〔かんしょの栽培面積と生産量の推移〕



〔サツマイモ基腐病〕

〔かんしょの輸出実績の推移〕



【解決すべき課題】

○ サツマイモ基腐病のまん延
○ 苗の安定生産・供給体制の不備
○ 担い手の減少や生産コストの高まり
○ 状況の変化への対応が不十分

実施すべき対策

○ サツマイモ基腐病の克服
・マニュアルに基づいた対策の徹底
・健全苗の確保
・抵抗性を有する品種の作付拡大

○ 茎頂培養苗の安定供給体制づくり
・バイテクセンターを中心とした茎頂培養苗の生産と供給
・病害や変異株等のリスクに対応できる苗生産体制の確立

〔茎頂培養苗の増殖〕

○ 儲かる経営体の育成
・機械化体系にあわせた栽培技術やスマート農業技術等の導入
・法人や大規模経営体を中心とした作業受託体制モデルの推進

〔スマート農業技術〕

○ 特徴を活かした産地づくりと販売力の強化
・産地の特長を活かした販路開拓への支援
（販売戦略の実施、人材育成への支援、輸出拡大に向けた支援　等）

〔抵抗性のある品種「べにひなた(左)」、みちしずく(右)」〕
※写真：農研機構HPより

【目標】

○サツマイモ基腐病の減少
基腐病発生実面積　　７.２％（R2･3平均）→　０.７％（R12）

○かんしょ産地の維持拡大
かんしょの産出額　　５０億円（R4）　　→　７０億円（R12）